

令和3年度 第6回 北杜市総合計画審議会
《会議録》

- 1 日 時 令和3年11月22日（月）14:00～16:30
- 2 場 所 北杜市役所 北館3階 大会議室
- 3 出席者 【会長】藤原真史
【副会長】北原正倫 矢野 望
【委員】小川昭二 村田 茂 清水 精 小池雅美 内藤和心 日野水丈士
堀内敏光 小林喜文 安達義通 花谷泰広 井上能孝 浅川英三
功刀孝次郎 渡邊雅人 飯田直也 下田実奈 中澤尚志
飛矢崎雅也（敬称略）
【市役所】市長 上村英司
副市長 小林 明
教育長 輿水清司
政策秘書部長 宮川勇人 企画部長 中田治仁
総務部長 中山晃彦 健幸市民部長 八卷弥生
福祉部長 伴野法子 森林環境部長 大芝 一
産業観光部長 輿水伸二 建設部長 大輪 弘
教育部長 加藤 寿 上下水道局長 浅川和也
企画課長 田中 伸 財政課長 進藤修一
人事課長 小澤哲彦
【事務局】政策推進課長 浅川 豪
政策推進課 計画推進担当 向井幹裕 篠原 亮 有賀 翼
【委託業者】特定非営利活動法人SCOP 鷲見真一 木亦千尋
- 4 欠席委員 小池啓一委員 矢崎憲恒委員 佐野 極委員
- 5 会議録署名 清水 精委員 下田実奈委員
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍 聴 3人
- 8 会議内容 1) 開会
2) 挨拶
3) 議題
① [報告] 若者世代アンケートの結果について
[報告] 企業・団体からの提言について
② [報告] 新・行政改革大綱（素案）について
③ [協議] 第3次北杜市総合計画（素案）について
4) その他
5) 閉会

9 会議経過

1) 開会

2) 挨拶

(会長挨拶要旨)

- 第1回の議会を開催してから4カ月が経過した。書面会議も含め前回まで5回の会議にて毎回資料を確認、検討いただき様々な意見を寄せていただいた。それらを踏まえ、今回の素案の作成に至った訳だが、この後に控えている議会報告や、一般市民から意見を伺うパブリックコメントにかけるに相応しいものになっているのか今回も多面的・多角的にご意見をいただきたい。
- 限られた時間ではあるが、今回も実り多き会議になるようご協力いただきたい。

(市長挨拶要旨)

- この度、これまでの委員各位のご意見等を踏まえ、計画の「素案」をとりまとめた。
- 本日の会議では、計画全体の構成とともに、基本計画のうち、リーディングプロジェクトの具体的な取組や、総合計画が目指す成果の達成状況を把握するための、数値目標の設定について、更には、達成状況を評価検証し、改善につなげる進行管理の仕組みについて、ご意見をいただきたい。
- リーディングプロジェクトについては、まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置付ける中で、若い世代や子育て世帯のニーズに対応した住環境づくりや情報発信、魅力的なコンテンツ開発と長期滞在型観光の確立、シティプロモーションや二拠点居住の推進、観光ルネサンスの推進など、本市の強みや特徴を生かした先導的で核となる施策を設定している。
- 進行管理の仕組みについては、新たに「総合計画推進委員会」を新設し、専門的な観点から、計画の達成状況の検証と進行管理を行っていきたいと考えている。
- 今後については、本日のご意見を踏まえた素案を市議会へ報告したのち、12月中旬からパブリックコメントを実施し、来年2月上旬ごろを目途に答申案として、とりまとめたいと考えている。
- 委員の皆様には、ご専門のご知見や豊富なご経験をもとに、様々な視点から忌憚のないご意見を賜るようお願い申し上げます。

3) 議事

議題① [報告] 若者世代アンケートの結果について

[報告] 企業・団体からの提言について

事務局(委託業者:SCOP)から資料2、3について説明。委員からの質疑や意見等については、次のとおり。

(発言者)

委員

(発言内容)

素案まで完成している中で、このタイミングでワークショップやヒアリングの結果が出てくるのは、計画策定のプロセス上、最適な流れなのか。

事務局	<p>新型コロナウイルス感染症の影響もあり、対面方式のワークショップの開催ができず代替手段をとることとなったが、ワークショップやヒアリングなどから寄せられた市民の意見については、当計画策定の検討の参考とさせていただいており、計画策定においては差し支えない。</p> <p>また、寄せられた意見等については、計画策定のほか、今後の事業推進の際の参考資料、ヒントとしても活用していく。</p>
議長	<p>事業の検討作業のなかでも参照し、最大限活用していただきたい。</p>

議題② [報告] 新・行政改革大綱の策定状況について

事務局から資料 4-1 (P77～99) について説明。委員からの質疑等については、次のとおり。

(発言者)	(発言内容)
委員	<p>資料 4-1 90 ページ「行革の柱 1 公共施設保有量の最適化」について、保有施設量を減少させるのは財政改善のためと思うが、子どもの数を 2 倍にするという目標と矛盾するのではないか。すでに子どもの数を 2 倍にすることを諦めているのか、両立が可能なのか。子どもの数が達成した場合、できなかった場合にどうするか等、そこまで考えられているのか伺いたい。</p>
事務局	<p>子どもの数を 2 倍にするためには、施設の数維持することよりも施設の最適化を図る中でサービスや質の水準を重視する行政運営にシフトしていく必要があると考えている。そのためには、経営資源の捻出が不可欠であり、総合計画と新・行政改革大綱の双方を推進する必要がある。そのなかで地域内外から若者の数を広く呼び込み、子どもの数を 2 倍にできるような様々な施策を展開していきたいと考えている。</p>
委員	<p>1 点目は先ほど「下支え、チェックしていく」という言葉があったが、我々が議論している総合計画は新・行政改革大綱に拘束されるのか。</p> <p>2 点目は資料 4-1 92 ページの「4-1-1-4 市立中学校」について、基本方針が出されており、「2～4 校での統合・再編を進める」とあるが、現在並行して学校適正規模検討に係る審議会が行われている。この箇所は審議中であつて結論がでていないのではないかと。</p>

事務局	<p>総合計画は、新・行政改革大綱に拘束されるものではないが、新・行政改革大綱は総合計画のありたい姿の実現を図るために経営資源を捻出するための基本方針等を示したもので、市の行政基盤の推移をしっかりと確認しながら総合計画を策定していくことが重要なため、一体的に策定している。</p> <p>中学校の統合・再編については、別途、会議が開かれているが、行政改革推進委員会では、中学校の統合・再編に限らず、今後の厳しい財政状況の中でも、行政各般にわたるサービス水準を維持・向上していくために必要な行政経営基盤の構築について審議している。県内市町村の状況や国の方針等とあわせてみた場合、妥当な水準かということを検証し、出てきた数値である。</p>
委員	<p>国の審議会からの引用があるが、教育的な観点からの適正な規模ではない。学校規模の適正化・配置については、全国一律に決められるものではなく、市町村に委ねるとというのが国の審議会の見解である。WHO では学校規模は生徒100人以下が望ましいとしている。これまでの会議の意見を、丁寧に扱ってほしい。</p>

議題③ [協議] 第3次北杜市総合計画（素案）

事務局から資料 4-1（表紙～75）について説明。委員からの質疑や意見等については、次のとおり。

(発言者)	(発言内容)
委員	それぞれの施策にある「新規」「重点」「横断」について説明をしてほしい。
事務局	<p>「新規」は、新たに取り組む施策、新たに総合計画に記載した施策、「重点」はより重点的に取り組む施策、「横断」は分野横断・部局横断し、連携して取り組むべき施策を区分している。</p> <p>例えば、資料 4-1 23 ページ「成長産業の誘致」とあるが産業内容も含め様々な分野がある。該当する業界や分野について横断的にカバーするという意味で「横断」と記載している。</p>
委員	資料 4-1 23 ページ「企業とタイアップした子育て環境 PR の推進」とあるが、部門別計画にも出てくるのか。
事務局	例えば資料 4-1 67 ページ [4-4-2 就業・就職への支援] に「子育て世代に合った職場が紹介できるよう企業情報を収集し、コーディネートを行う」と記載しており、この箇所と繋がってくる。
委員	そのような形だと非常に分かりづらい。計画のタイトル等と対応がわからな

いと、どこを探したらいいのかわからない。

事務局

ご意見を踏まえわかりやすく検索ができるような形に工夫していきたい。

議長

つながりが明確にわかるように整理をしてほしい。

委員

資料 4-1 26 ページ【LP3-1 世界水準の観光と食のまちをつくる】に関して、現在、新型コロナウイルスが落ち着いて観光客が非常に増えている。アウトドアブームも巻き起こっており、継続してほしいと思う。

一方で、去年 9～10 月頃に管理されていない場所でキャンプやバーベキューをする人々が増え、ごみが散乱する等の問題があった。秩序あるアウトドアの街を目指すという内容を加えてほしい。

委員

子ども育成戦略会議の委員長の立場で話をしたい。子ども育成戦略会議の検討内容が 8 割方入っており、嬉しく思う。

一方、子ども育成戦略会議で話した思想・考え方がリーディングプロジェクトに反映されていない。子ども育成戦略会議の委員は、移住者・教育関係者が多かったが、自然環境が破壊されている状況を危惧しているという意見が非常に多くあり、市は環境を守るつもりがあるのかという声も挙がっていた。資料 4-1 72 ページ、部門別計画の【5-3 自然と暮らしが共存するまちづくりの推進】に記載されていると思うが、自然環境保全・秩序ある土地利用などもリーディングプロジェクトに入れてほしい。そうすることで、子ども育成戦略会議の考え方も反映されると思う。

委員

地域福祉の充実を図るには、地域共生社会をしっかりとつくる必要があり、資料 4-1 51 ページ【2-4 地域福祉の充実】の各取組を行い、基層的な部分が強くなれば子育て家庭にとってもよい地域になると思う。全国に先んじて取り組んでほしい。

また、103 ページに進捗管理のイメージとして PDCA サイクルの図はあるが、PDCA は上手く循環していないことが多く、そのやり方はもう古いという声も挙がっている。パフォーマンスではなく、幸福度・魅力度などの数値化しているが測れないもので評価方法をつくってもらえると面白いと思う。

委員

資料 4-3 の KPI に関して、数値化できる目標が大前提だと思う。しかし、先ほど事務局から数を減らすのではなく質を上げるというお話があったように、ただ数値を追い求めるだけではなく、他の手段でも成果を求められたらよいと思う。

また、資料 4-3 「No.7 小・中学校の不登校児童生徒の割合」と指標がある

が、資料 4-1 41 ページには「多様な学びを選択できるよう」と記載がある。割合を減らすことを指標としているのであれば、本来の目的とずれてしまっているのではないか。

資料 4-3 「No.31 納税者一人あたりの課税所得」に関して、例えば、東京に本社がある企業に働いているのに北杜市の課税額としてしまうと市内企業の支援から論点がずれてしまうので、市内企業だけに絞った課税所得に変更すべきではないか。

委員 先ほど他の委員からもあったが、最近人の流れが増加した。また、当協会が開催した自然に触れるイベントは非常に人気があり、自然への関心の高さを再認識した。それと同時に迎える側の想いや体制が重要と痛感した。地域に住む人たちが誇りや愛着をもちながら、それを伝える機会があればいいと思う。資料 4-1 27 ページに“シビックプライドの醸成”と表現してあるが、地元の人が地域の魅力を愛し、伝えていけるように丁寧な補足説明がほしい。

委員 今回、総合計画はバックキャスティングという考え方を採用した。バックキャスティングはしっかりした目標を決めて、全ての関係者がその姿を共有することで大きな力が生み出せることが最大の魅力である。北杜市の政策では将来のありたい姿を起点に主要な施策を導いている。逆に言うと、これを理想とする未来を全ての人々と共有することが出来なければ実現が難しくなる。全体をみると、全ての人々が北杜市のありたい姿を共有する方策についての記載部分が少ないように感じる。

例えば、資料 4-1 17 ページの「コラム 2：市民参画・市民協働の考え方」と記載がある。この市民参画・市民協働の考え方はとても重要であり、コラムではなく本文のどこかに記載しても良いのではないか。

また、同ページに「北杜市民憲章」を記載する必要があるのかと感じた。なお、“コラム 2”とあるが“コラム 3”の誤りではないか。

委員 資料 4-1 17 ページの「コラム 2：市民参画・市民協働の考え方」に関して、市民の役割を具体的に記載していただきたい。

また、資料 4-1 22 ページ LP1-1 に関して、「子どもの健康と豊かな心を育む空間がある新たな子育て支援施設、保育園の整備」とあるが、保育園を減らした後にまた作るのか。この内容について伺いたい。

さらに、資料 4-1 23 ページ LP1-2 に関して、若い世代と子育て世代とが混同されているように見受けられる。若い人が皆結婚したい、子育てしたいわけでもないので、強要しないようにしていただきたい。

委員 資料 4-1 103 ページの PDCA に関して、ACTION の後に「必要に応じて取組内

容を見直し」とあるが、事前資料には特に記載がなかった。見直しの内容は、施策内容なのか、実施方法なのか。また、総合計画の規則の中で「基本計画は5年とし計画ごとに更新する。著しい社会情勢の変化、特別な理由がない限り変更しないとする。」とあるが、社会情勢の変化が速いため、新たに取り組むべき課題が出てきたときにどのように対応するのか気になる。見直せないことはないが、素早く対応するという表現も追加してほしい。

例えば、63ページの「観光 MaaS」について記載があるが、MaaSの機能を観光のみだけでなく他の分野に使うとなった場合、どこに位置付けるのか。計画は柔軟に見直すという考え方が重要になる。柔軟に対応ができるように整理してほしい。

議長 柔軟に見直し、スピード感をもってやっていくべきだと思うので、最終的に調整していただきたい。

委員 素案は見やすくなった。引き続き改善していただきたい。

1点目、資料4-1 26ページ 【LP3-1 世界水準の観光と食の都市をつくる】の強みだが、南アルプス、八ヶ岳、秩父と3つの山岳が成す自然の変化が大きな特徴だと認識しており、これを明記してほしい。

2点目、資料4-3 指標の「No.30 山岳遭難発生件数」は必ず増える。山岳遭難発生件数は通報レベルで統計されている。登山者数が増えれば増加するし、携帯の受信範囲が広がるほど増加するため、目標値設定が難しいと思う。

例えば、携帯のGPSを使ったサービスを利用し市内の登山者数を調べるの方が、効果があるのではないか。

3点目、資料4-1 全体を通して部門別計画の情報量のばらつきがある。分量が少なすぎる部分は加筆が必要なのではないかと思う。

委員 山岳救助隊の救助件数が増えている。救助が減るように、“安全な登山”という趣旨を追加してほしい。

委員 資料4-1 11ページの「そのため、合併から17年が経過した中で～」について、合併によるスケールメリットについて記載してあるが、スケールデメリットもあるのではないか。スケールデメリットの方が地方の歪になっている例も多い。そこにも言及しなければ責任ある計画にはならないと考える。

委員 資料4-1 103ページのPDCAサイクルについて、今回の計画策定ではバックキャストイングの手法を使っているが、進捗管理、見直しの方法として適切か、またPDCAサイクル以外に進捗管理、見直し方法はあるのか。

事務局	<p>PDCA サイクルについては、どんな分野でも使うことができる継続的改善の仕組みであり普遍的な手法であると考えている。</p> <p>効果が出るようにサイクルを工夫することや、何に重きを置くか、新たな取組をするのかなどを工夫した例はある。</p>
議長	<p>高い目標を設定したため、達成するためには未達の状況が続くと思うが、適宜見直し、行動を起こしていくことが必要だと思う。そのなかで柔軟に変えていくことも考えていく必要がある。</p>
委員	<p>指標項目と目標が不一致な部分があるように感じる。どのように目標水準を設定するか検討してほしい。</p> <p>資料 4-1 58 ページの【3-4 多様性を認め合う共生社会の実現】に関して、現在、学校現場では既にこれらの教育に力を入れている。しかし、多様性・人権意識については、一般社会において、特に年配の方々には広まっていないと感じている。意識を広めていくことは難しい課題だと思うが考えていくべきだと思う。</p>
委員	<p>DX 化の推進について、デジタルに乗り遅れている立場からは、そのスピードが怖い。デジタルデバイドの問題もあるので、高齢者の立場からは節度をもって進めてほしい。</p>

4) その他

- 今後のスケジュールについて、事務局から資料 5 により説明。
- 次回、第 7 回総合計画審議会は、1 月下旬～2 月上旬に開催予定。日程等は決まり次第通知する。

5) 閉会 [16:30]